

## ●新会員代表者紹介 村田 晃嗣



### 同志社大学学長

八田英二前学長の任期満了に伴い、四月一日付で村田晃嗣法学部教授が第三十二代学長に就任した。任期は二〇一六年三月三十一日までの三年間。

村田新学長は一九六四年兵庫県神戸市生まれ。一九八七年同志社大学法学部を卒業、一九八九年神戸大学大学院法学研究科博士前期課程を修了。一九九五年神戸大学大学院法学研究科博士課程後期課程及び米国ジョージ・ワシントン大学大学院博士課程（政治学）を単位取得退学。一九九八年博士（政

治学）学位受領（神戸大学）。一九九五年広島大学に専任講師として着任。二〇〇〇年同志社大学法学部助教授に就任し、二〇〇五年教授に就任。これまで大学評議員、法学部長を歴任した。

専門分野はアメリカ外交、安全保障政策論。主な著書に「レーガンいかにして「アメリカの偶像」となったか」（中公新書、二〇一二年）、「現代アメリカ外交の変容 レーガン、ブッシュからオバマへ」（有斐閣、二〇〇九年）など。

本学は、二〇一三年度に文系学部の今出川統合移転を中心とする教学体制の再構築が完了を迎えた。創立百五十年にあたる二〇二五年へ向けて、さらなる発展の第一歩を踏み出すにあたり村田学長は、「総合大学として、量的拡大からより一層の質的向上への転換」本学が固有に持つ特色の強化「全学レベルでの施策と各学部・研究科で取り組むべき事項の明確化」「対外的・国際的な発信力の強化」を四つの長期的目標に挙げている。同志社の枝に連なる学生、校友、教職員が諸目標や諸課題に取り組む「そうした環境を整備することが学長の使命であると抱負を述べている。

## ●新会員代表者紹介 奥島 孝康



### 白鷗大学学長

三期六年にわたる森山眞弓前学長のあとを受けて、四月一日付で白鷗大学第五代学長に就任した。

奥島新学長は一九三九年、四万十川源流に近い最大支流広見川の流れる自然豊かな愛媛県北宇和郡日吉村（現・鬼北町）に生まれた。一九六三年に早稲田大学第一法学部を卒業し、同大学大学院法学研究科修士課程・博士課程で商法学を専攻。一九七一年に法学部助教授、一九七六年に教授に就任し、一九七六年から七九年までパリ大学交換研究員として留学した。専門は企業

法で、特に企業組織法、フランス会社法に造詣が深い。教務部長、図書館長、法学部長を歴任し、一九九四年早稲田大学第十四代総長に就任。二期八年にわたり、海外提携校の大幅な拡大と大学院アジア太平洋研究科や国際教養学部の新設で国際化を推進するなどさまざまな改革に辣腕を振るった。

学外では日本私立大学連盟会長や日本私立大学団体連合会会長、日本法科大学院協会会長等の要職を兼ね、現在も公益財団法人日本高等学校野球連盟会長や公益財団法人ボーイスカウト日本連盟理事長等を務める。各団体の長として多忙な日々を送るが、「教え子の誘いは優先したい」と、元ゼミ生たちとの会合に気さくに顔を出し、酒を酌み交わす。豪快で飾らぬ人柄は多くの教え子に親しまれ、早稲田大学退職時の最終講義には薫陶を受けた学生のほか、元ゼミ生が一千人以上集まった。趣味はトレッキング。蔵書保管のために別棟として書庫を建てたほどの読書家でもある。私学を取り巻く環境が厳しくなる中、類まれな実行力と指導力、各分野に幅広い人脈をもつ新学長の手腕に期待が寄せられている。

●新会員代表者紹介  
かのう たかよ  
加納 孝代



活水女子大学学長

野々村昇院長が兼任していた学長に四月一日付で就任した。任期は二〇一七年三月三十一日までの四年。

加納新学長は一九四四年福岡県生まれ。一九六八年東京大学文学部社会学科卒業の文学士。一九七二年東京大学人文科学研究科比較文学比較文化文学修士、一九七七年同博士課程単位取得退学後、同研究室（比較文学比較文化）の助手。一九八三年から青山学院女子短期大学助教授、一九九二年から教授として英文学科に所属し、学科主任、学生部長、総合文化研究所長を務めた。

専門分野は宗教社会学、比較文学、比較文化。日本文学の英語への翻訳作品論、キリスト教文学（特にキリシタン文学と幕末・明治初期の聖書と讃美歌類）の日本語への翻訳・紹介研究、外国人旅行者の日本紀行文、日本人の外国旅行記研究など。日本比較文学会会員として国際比較文学会の日本での世界大会開催（一九九一年）に計画段階から関わり、二〇一〇年まで国際比較文学会の理事や会計担当役員などを務めた。

活水女子大学の淵源は、一八七九年「活水女学校」の創立にまでさかのぼる。建学の精神であるキリスト教の土台の上に、自立した人格としての女性を育て上げることが目標に励んできた学校である。今年三十三年目を迎える活水女子大学には、文学、音楽、健康生活、看護の四学部があり、現代の女性の志望・関心と社会の必要に応えようと努めている。建学の精神において共通する学校（青山学院）に長年勤務し、教職と研究に豊かな実績を積んできた新学長のリーダーシップのもと、本学の使命が着実に果たされていくことを願い、期待している。

●新会員代表者紹介  
ほそかわ りょういち  
細川 涼一



京都橘大学学長

青木圭介前学長の任期満了に伴い、細川涼一教授が学長に就任した。任期は二〇一三年四月一日から二〇一六年三月三十一日まで。

新学長は一九五五年東京都生まれ。一九七七年中央大学文学部史学科国史学専攻卒業、中央大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得退学。同大学で兼任講師を務め、一九八九年に京都橘大学（当時・京都橘女子大学）文学部に専任講師として着任。一九九一年助教授、一九九六年教授となり、教務部長、学生部長、文学部長、文学研究科

長、女性歴史文化研究所所長などを歴任した。

専門分野は日本中世史、日本文化史、『日本中世の社会と寺社』（思文閣出版）、『関東往還記』（平凡社）、『漂泊の日本中世』（ちくま学芸文庫）など、編著書多数。学会活動では歴史学研究会、日本史研究会、仏教史学会などに所属している。

京都橘大学は、「自立・共生・臨床の知」を教学理念とし、人文・社会・教育・医療系の五学部十学科三研究科を擁する総合大学である。二〇〇五年に男女共学化し、看護学部、現代ビジネス学部現代マネジメント学科を設置。その後、二〇〇七年文学部児童教育学科、二〇〇八年現代ビジネス学部都市環境デザイン学科、大学院看護学研究科、二〇一〇年人間発達学部、二〇一二年健康科学部を設置するなど、さまざまな改革を進めてきた。

二〇一七年には大学開学五十周年を迎える。今後も社会の変化に対応した教育を行い、社会に貢献できる人材を育成する大学となるため、さらなる教育研究の充実を図っていくことが、新学長に求められる課題である。

●新会員代表者紹介  
さとう かずと  
**佐藤 和人**



**日本女子大学学長**

蟻川芳子前学長の任期満了に伴い、四月一日付で佐藤和人家政学部教授が第十三代学長に就任した。

佐藤新学長は一九五三年鹿児島県生まれ。一九七七年東京医科歯科大学医学部医学科卒業。一九八一年同大学院博士課程修了（医学博士の学位取得）。同年米国カリフォルニア大学ロサンゼルス校（UCLA）のResearch Associateとして老化と免疫の研究に従事し、一九八三年帰国。東京医科歯科大学内科医員を経て、一九八六年から東京女子医科大学リウマチ痛風セン

ター内科講師。その間、膠原病（主に関節リウマチ）の診療と研究に従事した。一九九四年本学家政学部助教授に就任。一九九九年教授。食物学科管理栄養士専攻の学生に病理学、臨床医学、臨床栄養学などの教育を行うと同時に、保健管理センター所長として幼稚園から大学院、及び教職員の健康管理に従事した。二〇〇七年から二〇一一年まで

家政学部長を務めた。専門は臨床栄養学、内科リウマチ学で、免疫と栄養に関する研究を行っている。著書として『エッセンシャル臨床栄養学』（共編著、医歯薬出版）などがある。

日本女子大学は、一九〇一年日本における最初の総合的な女子高等教育機関として、成瀬仁蔵によって創立された。創立者の残した「信念徹底」「自発創生」「共同奉仕」という三綱領を全学の教育理念として掲げ、「自学自助」の教育方針のもと、有為の卒業生を輩出している。女子教育のバイオニアとしてさらなる躍進を期する本学にとって、新たな時代に対応した、温厚な人柄の中に強靱な精神力をもつ舵取り役としての新学長に対する期待は高い。

●新会員代表者紹介  
ばば よしひさ  
**馬場 善久**



**創価大学学長**

山本英夫前学長の任期満了に伴い、四月一日付で馬場善久経済学部教授（副学長）が第五代学長に就任した。

馬場新学長は一九五三年富山県生まれ。一九七五年創価大学経済学部卒業。その後カリフォルニア大学サンディエゴ校経済学研究所博士課程を修了、PhD取得。創価大学経済学部講師を経て一九九四年教授、教務部長を務め、二〇〇五年副学長。専門は計量経済学。創価大学は一九七一年に開学。看護学部が本年四月に開設し、現在七学部、

卒業生数は五万四四五三人。十二階建ての新総合教育棟が六月に完成。明年四月には国際教養学部が開設予定である。二〇一〇年に創立五十周年を迎える創価大学は、ブランドデザインを策定し、「創造的人間」を育成する大学を目指す。特に、開学以来の国際交流をさらに充実させ、グローバル化時代に対応した教育プログラムを立案。その取り組みが、昨年度科学省の「グローバル人材育成事業」に採択された。

新学長は、これからの四年間は人間教育の世界的拠点を目指し、すべての改革への取り組みを果敢に実行していくと決意を語る。特に、次の三つの資質を兼ね備えた創造的人間・世界市民の育成に取り組む。

- (1) グローバル化する国際社会で活躍するための語学力、コミュニケーション力
  - (2) 人類的課題を共有し多様性を理解するグローバルマインド
  - (3) 異文化社会でネットワークを形成する創造的な問題解決力
- 国際社会のあらゆる分野で活躍する人材の輩出に挑戦していく。  
趣味は囲碁とスポーツ観戦など。

●新会員代表者紹介  
勝崎 裕彦



大正大学学長

多田孝文前学長の任期満了に伴い、四月一日より勝崎裕彦仏教学部教授が第三十四代学長に就任した。任期は二〇一六年三月三十一日までの三年間。  
勝崎新学長は一九四六年神奈川県生まれ。一九七〇年大正大学仏教学部を卒業後、一九七六年大正大学文学研究科仏教学専攻博士課程単位取得満期退学。一九七六年大正大学総合仏教研究所研究員、一九八一年大正大学総合仏教研究所特別研究員、一九八七年大正

大学仏教学部仏教学科非常勤講師に就任、一九九九年人間学部仏教学科特任助教授、二〇〇二年同助教授、副学部長、二〇〇四年同教授を経て、二〇一〇年より仏教学部長。博士（仏教学）。

専門分野は仏教学・大乘仏教菩薩思想、仏教文化・仏教ことわざの研究。日本語に込められた仏教を「ことば」の中からひもとく。著書に『仏教ことわざ辞典』（淡水社）、「ことわざで学ぶ仏教」（日本放送出版協会）、「大乘経典解説事典」（共編著、北辰堂）、「浄土教の世界」（共編著、大正大学出版会）、「仏教思想を読む」（共著、大法輪閣）などがあり、主論文として「小品系般若経の研究」「般若経の靈験記類」ほかがある。

新学長は、学生目線に立った「学生中心の大正大学」を前面に打ち出している。それを実現するためには教員と職員が一致協力して、「教職協働の大正大学」を推進していくことであると宣言している。「喜びや楽しみを分かち合い、哀しみや苦しみを理解し合って、共有し合い、明るい元氣なキャンパスを目指す」と、力強く抱負を述べている。

●新会員代表者紹介  
吉岡 俊正



東京女子医科大学理事長

四月一日付で、東京女子医科大学理事長に就任した。

新理事長は一九七九年北里大学医学部を卒業、同大学病院の小児科研修医を経て、一九八四年から十年間米国のハーバード大学医学部小児科研究生、次いでバンダビルト大学医学部小児科の講師として腎臓病学の研究教育に携わり、一九九四年東京女子医科大学の助手、二〇〇三年医学教育学主任教授、二〇〇七年大学理事、二〇一〇年に副理事長を歴任し現在に至っている。  
新理事長はこれまで医学教育の改善について内外で活動してきた。特に二

〇三年から世界医学教育連盟地域部会の日本代表と会長を務め、教育の国際的質保証が求められる国際動向を認識し国内外の啓発を続けている。二〇一一年には本学医学部に国際基準に基づく最新カリキュラムを導入し、二〇一二年にグローバルスタンダードに基づく国際外部評価を日本の医科大学としては初めて行い、学部教育が世界水準にあることの認知を受けた。現在、全国医学部長病院長会議の医学部・医科大学の教育評価に関わる検討委員会、公益財団法人大学基準協会大学評価委員会、文部科学省大学設置・学校法人審議会分科会委員などを務め、国際化する医療の中での医学教育分野別質保証、高等教育の質保証、そして医学教育実践などについて実績をもつ。

学部では写真部顧問、東日本医学生総合体育大会理事などを務めた。趣味として最近ジャズピアノを習い始めた。少人数の学生からなる医学部、看護学部、大学院、及び看護専門学校で構成される教育と、全国から人材が集まる大規模な医療と研究をグローバル化の中で進化させ続ける舵取りとして期待されている。

## ●新会員代表者紹介 まつもと のりお 松本 宣郎



### 東北学院大学学長

星宮聖前学長の任期満了に伴い、四月一日付で第五代学長に就任した。

松本新学長は一九四四年岡山市生まれ。東京大学文学部卒業後、同大学院西洋史学修士課程を修了、同大学助手を経て、一九七八年東北大学文学部講師、一九九〇年教授。二〇〇八年の定年退職後、宮城学院学院長などを経て、東北学院大学学長となった。東北大学では、文学研究科長、文学部長、評議員を歴任し、学部の改組、大学院重点化、国立大学法人化などの改革に貢献。また、歴史科学専攻の共同研究プロジ

エクト推進をリードするなど、全学教育委員として東北大学の教育全般の改革のために働き、さらに大学設置・学校法人審議会、大学評価学位授与機構評価委員、大学基準協会委員などを務め、教育行政分野でも活躍した。

専門分野は古代ローマ史研究で、当該時代のキリスト教徒とローマ帝国社会の関わりを解明してきた。著書『キリスト教徒大迫害の研究』で博士の学位を取得。東京大学。また、『ガラヤヤからローマへ』『キリスト教徒が生きたローマ帝国』など、教養人向け書物でも社会史の手法を駆使した先端的研究を紹介している。西洋古典学会委員、日本基督教教会理事を歴任し、学会の重鎮としての地位を担ってきた。

松本新学長は、祖父の代からのプロテスタントクリスチャンであり、敬虔な教会人として、キリスト教教育について高い識見の持ち主である。東北学院の建学の精神である福音主義キリスト教を守り、人間と社会と文化への深い理解と洞察力を共有できる教養教育が身につくようなカリキュラムを提供し、人間性豊かな学生を育てることに意欲を示している。

## ●新学長紹介 たじま まこと 田島 眞



### 実践女子大学学長

湯浅茂雄前学長の任期満了に伴い、四月一日付で田島眞生活科学部教授が実践女子大学、同短期大学の第十四代学長に就任した。任期は四年間。

田島新学長は昭和十九年生まれ。東京都出身。昭和四十一年東京大学農学部農芸化学科卒業、同大学院農学系研究科農芸化学専攻修士課程修了後、同専攻博士課程を修了。農学博士。

農林水産省食品総合研究所食品添加物研究室長、企画科長などを歴任し、平成三年実践女子大学生活科学部教授となる。平成十八年より生活科学部部長

及び学園理事を二年間務めた。研究テーマは、農産食品の嗜好特性の解明（特に米と野菜の機能性）や調理における塩の効果など。学外では宇宙航空研究開発機構（JAXA）の宇宙食開発のプロジェクトリーダーを務めるなど、食品学の幅広い領域を研究対象としており、平成二十四年には栄養士養成成功者として厚生労働大臣表彰を受賞した。

平成三十一年に迎える「学園創立百二十周年」に向けた記念整備事業の一環として、本学は平成二十六年四月より、文学部、人間社会学部及び短期大学を渋谷キャンパスに移転、「日野」と「渋谷」の二校地で教育を展開することとなる。「日野」は地域中核型キャンパスとして、生活科学部がその研究成果を地域に広く開放し、「渋谷」は都小型キャンパスとして、近隣の高等教育機関や文化施設などとの連携を深め、女性教育の拠点としてさらなる発展を期す。

田島新学長には「実践女子学園の第二世紀」の創造に向け、これまでの改革のより一層の発展に、その手腕が大いに期待される。

●新学長紹介  
たかはし としお  
**高橋 敏夫**



**拓殖大学学長**

渡辺利夫前学長の後任として、四月一日付で拓殖大学学長、拓殖大学大学院長に就任した。

高橋新学長は、九四二年東京生まれ、東京理科大学を卒業後、岩手県の高校での教員を経て、拓殖大学大学院商学研究科修士課程を修了（一九七四年）、拓殖大学教員になるといふ経歴の持ち主である。そうした経験から育まれたものか、学生への接し方、面倒見のよさは学生の間で高い人気があるとともに、大学内での雑多な問題にも労苦をいとわずこまなく、自ら解決への行動

をとる積極性を見せる。教職員からも信頼・尊敬されているという人となりには、学者以前の人間性も高く評価されている。

一九八六年拓殖大学商学部教授、商学部学部長、拓殖短期大学学長を経て、拓殖大学副学長として一九九九年から渡辺前学長を補佐してきた。百周年記念行事を十三年前に済ませた伝統ある大学という自負を内に秘めながらも少子化の波は避けて通ることもできず、今後いかに社会から高い評価を得られる大学であり続けるか、新学長の手腕に期待されている。

専門の研究分野はコンピュータ・IT関連の経営情報学。学外でも全国中小企業団体中央会・中央会情報創造発信強化支援事業委員長などの要職も務める。

主な著書に『Windows』による情報処理入門』『コンピュータ処理と世界の言語』『経営情報システム』などがある。

温和な人柄に似ず休日は愛車を駆つてのドライブが趣味。これからは、車のハンドルから大学の舵取りへと多忙さは一段と増すことになりそうである。

●新学長紹介  
まるやま やすひと  
**丸山 康人**



**四日市看護医療大学学長**

河野啓子初代学長の退任に伴い、四月一日付で丸山康人副学長が第二学長に就任した。学校法人暁学園理事及び評議員も兼ねる。

丸山康人新学長は一九五六年東京都生まれ。一九八四年早稲田大学大学院政治学研究科博士前期課程修了。一九九三年明治大学大学院政治経済学研究科博士後期課程を単位取得満期退学。一九九四年より四日市大学経済学部助教授、一九九九年より同教授。二〇〇

〇一年より二〇〇七年まで同大学総合政策学部教授。この間、四日市大学地域政策研究所副所長、同所長、四日市大学学長補佐を歴任。二〇〇七年の四日市看護医療大学開学と同時に副学長・看護学部教授に就任した。

専門は行政学で、主な著書に『自治・分権と市町村合併』（編著、二〇〇一年、『ローカル・マニフェスト』政治への信頼回復をめざして）（共著、二〇〇三年）、『概説 現代日本の政治と地方自治』（共著、二〇〇五年）、『ロンドンの政治史』（共著、二〇一二年）などがある。

丸山新学長は、建学の精神である「人間たれ」を具現化すべく、看護専門職として望まれる豊かな人間性を培うことを重視した教育研究を推進していくとしている。また、長年にわたる四日市大学、四日市看護医療大学での教育経験に加え、三重県、四日市市をはじめとする地元自治体で数多くの各種委員会・審議会委員などを務めたキャリアや人脈を生かし、四日市市、市立四日市病院との公私協力方式により運営されている四日市看護医療大学の発展に寄与したいと考えている。

## ●新加盟会員大学紹介

# 筑紫女学園大学



三年に一学部二学科「文学部 日本語・日本文学科、英語学科」で筑紫女学園大学が開設された。

・自己と向き合う場を多く取り入れ、真実の自分を照らし出す光に出会い、自分を見つめることで人間形成の機会を提供すること。

・社会人に求められる幅広い教養教育と専門教育によって、一人ひとりの成長と自己実現をすること。

・その解決を目指す積極的な姿勢を育むこと。

・学生自らが課題を発見し、能力を磨くために充実した学びの環境を用意すること。

以上を理念としている。  
学園創立百周年にあたる平成十九年に大学院を開設し、平成二十一年には人間科学部を開設した。

学校法人筑紫女学園は、明治四十年、水月哲英師より、仏教精神、浄土真宗のみ教えに基づく人間教育、女子教育を目的に、浄土真宗本願寺派福岡地区の寺院で組織する「両筑会」をはじめとする多くの縁に支えられて設立された。「親鸞聖人が明らかにされた仏陀（釈尊）の教え、すなわち浄土真宗の教えにもとづく人間教育」を建学の精神としており、校訓である「自律」「和」平「感恩」は、その精神を表したものである。

学園創立八十周年にあたる昭和六十

園を目指して、さらなる躍進を続けていく。

## ●新加盟大学学長紹介

# 若原道昭



筑紫女学園大学学長

筑紫女学園大学の若原道昭学長は、平成二十四年四月に就任して現在に至っている。

若原学長は昭和二十二年生まれ。昭和五十一年京都大学大学院教育学研究科教育学専攻博士課程単位取得満期退学。昭和五十四年京都芸術短期大学専任講師、昭和五十七年龍谷大学短期大学部専任講師に就任、同助教授、教授を経たのち、龍谷大学短期大学部長、龍谷大学副学長、龍谷大学学長を歴任

し、現職に就任した。

専門分野は教育哲学で、主な研究著書としては「教育の原理と課題」「仏教文化と福祉」「社会福祉と仏教」などがある。

日本私立大学連盟理事、大学コンソーシアム京都副理事長、文部科学省大学設置・学校法人審議会分科会特別委員なども歴任してきた。

筑紫女学園大学は浄土真宗本願寺派の宗門校であり、浄土真宗の教えを建学の精神としている。

若原学長は、この建学の精神のもと、学生一人ひとりが人間と社会を深く見つけ、自ら考え、判断し、行動する力量を身につけるとともに、社会の一員としてつねに他者を気遣うことのできる、心豊かな主体的人間として成長していくことを全力で支援することを大学の使命ととらえつつ、平成二十九年の学園創立百周年に向け、平成二十四年度に始動した五力年計画（筑女プラン二〇一七）を推進するにあたり、教職員の自発的な意見を尊重しながら、これを効率よく積み上げ、トップが迅速に意思決定できる学内体制をつくっていきたくと抱負を述べた。

## ●連盟編集部よりお知らせ

### ①研修プログラム

研修委員会では、加盟大学の教職員を対象として、大学経営を実践するプロフェッショナルとしてのアドミニストレーターを目指す段階的研修と、時代の要請に合わせて行う特定課題研修の二本立てにより研修を実施します。

前者は、入職後数年を経過した職員向けの次のステップへの啓発研修であるキャリア・デベロップメント研修、業務範囲を広くとり柔軟な創意を引き出す狙いの業務創造研修、さらには専門職としての大学管理者を目指すアドミニストレーター研修の三段階の研修を実施します。平成二十五年からは新たに論理思考による課題発見・設定・解決法の修得・向上を中心とした二日間の大学職員短期集中研修も実施します。後者は、創意工夫の発想を促し思考トレーニングを行う創発思考プログラム、職務の人の側面を振り返るヒューマン・リソース・マネジメント研修、P D C A サイクルの構築手法・思考法を学ぶマネジメントサイクル(P D C A サイクル)修得研修の三つから構成されています。

前者の「アドミニストレーターの養成を基本コンセプトとした研修」については、すでに募集を締め切ったものがほとんどですが、大学職員短期集中研修は現在参加者を募集中です。また後者の「特定の目的・狙いを設定して行う研修」のうち、ヒューマン・リソース・マネジメント研修についても、現在参加者を募集中ですので、奮ってお申し込みください。お問い合わせは教学支援担当まで。

研修名	ヒューマン・リソース・マネジメント研修	大学職員短期集中研修
日程	平成25年10月25日(金)～26日(土)	平成25年9月12日(木)～13日(金)
場所	プリーゼプラザ(大阪市梅田)	メルパルク広島(広島市中区)
募集定員	48名	24名
募集対象	加盟大学の課長職以上の管理職職員	25歳から30歳程度の加盟大学専任職員
費用(一人当たり)	20,000円	参加費 20,000円 宿泊費 14,042円
申込期限	平成25年7月12日(金)	平成25年6月14日(金)

### ②私立大学フォーラム

インテリジェンスセンター広報・情報部門会議(フォーラム)では、当法人の活動や大学の教育研究、管理運営等に関する情報、国の高等教育政策に関する動向などについて、社会への情報発信、当法人と加盟大学並びに加盟大学間の情報共有の推進を目的として、全国五会場において私立大学フォーラムを開催します。

同フォーラムは、一般社団法人としての公益目的事業の一つとして開催し、参加費無料にて、加盟大学関係者であるか否かを問わず、どなたでも参加いただけます。

参加方法等につきましては、後日、連盟ウェブサイトにおきまして詳細をお知らせすべく、現在準備中ですが、日程、場所、及びテーマ等の概要は以下の予定です。

「ランドテーマ」教育立国の再構築を目指した私立大学の挑戦(仮題)

「開催趣旨」地域再生の核としての大学「時代の変化に伴い多様化する学生支援」「グローバル化への対応」「初等中等教育との接続」など、各大学の先進的な取り組みの根底に流れる私立

大学ゆえの「自主・独自性」がもたらす教育の可能性」を私大連盟に蓄積された情報を用い、有識者を招き議論する。多様化する社会を支える人材育成を目指した私立大学の新たな挑戦が、教育立国の再構築をもたらす礎であること。五回のフォーラムを通じて社会に明示する。

会場	日程	テーマ
福岡	7月27日(土)	高等学校教育との連携・接続による大学教育の質的転換を考える(仮題)
名古屋	8月2日(金)	大学生の学生生活と心の健康を考える(仮題)
東京	9月21日(土)	グローバル化と教育改革—ビジネスの現場からのヒント(仮題)
仙台	10月12日(土)	被災地復興と大学・学生の役割(仮題)
京都	11月16日(土)	多様化する時代を乗り切るための私立大学からの提案(仮題)

## 編集後記

●平成二十五年春の叙勲（連盟関係者）  
瑞中綾章

堤 貞夫（早稲田大学名誉教授）

樋口秀雄（同志社大学名誉教授）

丸茂 新（関西大学名誉教授）

柳井道夫（成蹊大学名誉教授・元学長）

瑞重綾章

神田道子（東洋大学名誉教授・元学長）

## ●企画案・「意見」感想の募集

広報・情報部門会議（大学時報）

では、購読者のニーズにより合致した情報を提供するため、企画案・ご意見・感想を随時募集しております。企画案は、同会議で検討させていただきますので、企画をご提案いただく際は、過去の企画記事をご参照いただき、執筆者数、記事数、ページ数などの制約をご理解のうえ、お送りください。

①募集内容：企画案（テーマと趣旨）、ご意見・感想

②書式・自由（A4一枚程度）

③提出先：daigakuinfo@shidaren.or.jp

④その他：連絡先（お名前、大学名など）

を明記ください。

□「大学ポータル」が来年度から始まることもあり、学内に散らばるさまざまな情報をいかに効率的に収集し、いかに効果的に見せるかを検討している大学も多いかと思う

しかし、情報を公開しておしまいうるのでは、せっかく集めた情報も宝の持ち腐れである。これらの情報は、これまでの大学経営や教育研究の成果（善し悪しは別にして）であり、これらの子細に分析することで、何を改善すべきかが見えてくるはずである。この仕組みが「IR」である

「IR」という言葉は聞いたことはあっても、今一つ理解がたいという方が多いのではないかと。今回の特集では、「IRとは何か」に始まり、具体的な事例をさまざまな立場から執筆いただいた。「IR」の導入はこれからの大学には非常に役立つと思われる。各大学のこれからの取組みに期待したい。（広報・情報部門会議（大学時報）委員・上智大学学術情報局長、大日方 聖信）

□大学の社会的役割が大きく変わっていかうとしている。とりわけ、一

昨年発生した東日本大震災を契機に、防災・減災研究、復興支援活動などに積極的に取り組む研究者と、その指導のもと主体的に学んでいく学生たちの姿を見るに、そのことを強く感じるようになった。積み上げられてきた専門知識を活用し、現実に対応している課題の解決に向け、他者と連携しながら取り組む大学の機能への社会からの期待が日に日に大きくなっており、その対応領域も広がってきていると言えるのではないだろうか。

今次小特集における筆者の先生方の論文を拝読し、「防災・減災研究を積み上げていく役割」「学んだことを社会で実践し、浸透・波及させていく人材育成の役割」等々、あらためて大学の社会的な役割が重要化してきていると感じた次第である。そういう時代の職員としての責任を認識しながら日々の業務に邁進していきたく考えた。（広報・情報部門会議（大学時報）委員・立命館大学総合企画部広報課長、大場 茂生）

□「学生の主体性を引き出す大学教育とは」をテーマに座談会を開催した。主体性を図る評価指標は、「学生のワクワク、ドキドキをいかに引き出せるかである」。そう語る先生

## お知らせ

本誌「大学時報」は、平成二十四年度から日本私立大学連盟のウェブサイトで本文を閲覧できるようにしました。詳細は、<http://www.shidaren.or.jp/activities/daigakuinfo>をご覧ください。

方の姿がとても楽しそうであったことが印象深い。学生の主体性を引き出すためには、まずは教職員がワクワク、ドキドキするような大学である必要があるのかもしれない。

特集では、内部質保証の充実に向け、注目の集まる「IR」を取り上げた。小誌の事例が各大学のIRの進展に役立てば幸いである。

今号より、表紙について、日本大学芸術学部学生による制作作品をご提供いただけることとなった。今号は「新たな挑戦」や「春の息吹」といったアクティブ感をコンセプトとしたペーパークラフト作品。作者の思いやメッセージを「紙」のみで表現する。同じく「紙」を扱うものとして、読む人へのメッセージを込めた企画・編集を心がける所存である。（日本私立大学連盟事務局 春名 貴明）



